

◇◇*◇幸せリーグ第3回総会 が開催されました◇*◇*◇*



▲顧問および出席自治体の代表者らによる記念撮影

幸せリーグ、正式名称 住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（会長 西川太一郎荒川区長）は、住民の幸福実感の向上という同じ志を持つ基礎自治体の連合体です。北海道から九州まで、予定も含め、現在 77 の自治体に参加しています（27 年 10 月末現在）。



▲西川会長によるあいさつ

各グループの 発表内容

▼幸福度調査②グループ

自治体による幸福指標づくりの参考となるハンドブックを作成

▼定住人口増加グループ

定住人口増加策調査結果から、情報発信、郷土愛醸成、少子化対策の重要性を指摘

▼幸福度調査①グループ

自治体が住民の幸福度調査を実施する際の役立つマニュアルを作成

▼幸福度活用グループ

幸福度調査の具体的活用例として、条例化や総合計画への反映などを提案

▼町おこしグループ

独自商品の開発、まちのブランド化、地域との連携等町おこしの事例を紹介

今年 6 月 10 日、ホテルラングウッドにて行われた幸せリーグ第 3 回総会では、顧問である小宮山宏先生（前東京大学総長、三菱総合研究所理事長）、月尾嘉男先生（東京大学名誉教授）、原丈人先生（アライアンス・フォーラム財団代表理事）、坂田一郎先生（東京大学教授）のほか、全国からたくさんの自治体の首長の皆様らが一堂に会し、これまで各参加自治体がグループに分かれ議論を重ねてきた実務者会議の成果発表などが行われました。



▲各グループの実務担当者による成果発表の様子

編集発行 公益財団法人荒川区自治総合研究所

〒116-0002 東京都荒川区荒川 2-11-1

TEL : 03-3802-4861 FAX : 03-3802-2592

HP : <http://www.rilac.or.jp/> E-mail : info@rilac.or.jp

GAH NEWS RILAC No. 20

荒川区民総幸福度 GAH-Gross Arakawa Happiness

平成 27 年 11 月

公益財団法人

荒川区自治総合研究所

荒川区民総幸福度（GAH）レポートを発行しています

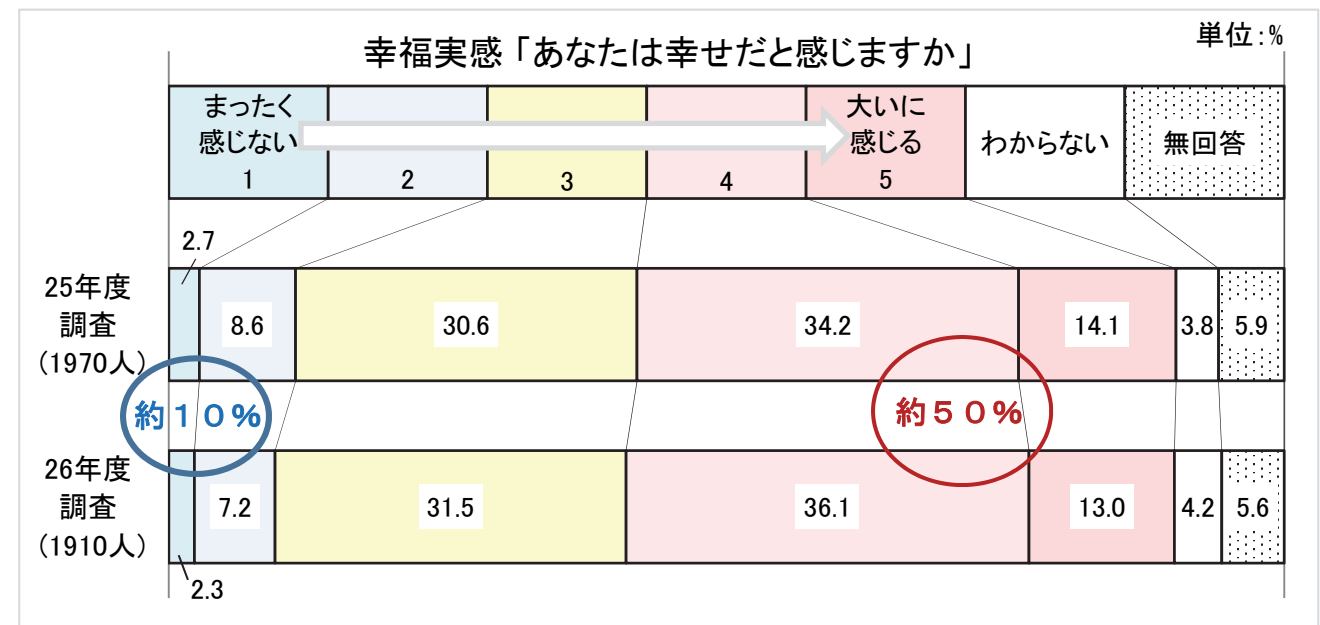
荒川区では、区民の皆さんの幸福度に関する調査を実施しており、荒川区自治総合研究所では、その結果を広く皆さんにお知らせするため、「荒川区民総幸福度（GAH）レポート」を発行しています。

レポートは平成 27 年 3 月に創刊し、11 月には「防災力と地域力の向上」をテーマとした第 2 号を発行しました。

今号の GAH NEWS では、これら 2 つのレポートの概要を取り上げます。



第1号では、アンケート結果から「幸福実感度」の全体像を紹介しています！



「あなたは幸福だと感じますか」との質問に対して、

実感度 1、2（幸福を感じない）と答えた人は約 10%

実感度 4、5（幸福を感じる）と答えた人は約 50%

詳しくは、GAH レポートをご覧ください！レポートは荒川区自治総合研究所HP（裏面）のほか、区役所 2 階情報提供コーナーや各区民事務所・ふれあい館でもご覧いただけます

第2号では、「防災」についてクローズアップ！

——区民アンケート調査の分析からみる防災力や地域力向上の取り組み

区民アンケート調査の概要

調査対象：満 20 歳以上の荒川区民

配布数：4,000

調査期間：(25 年度調査)平成 25 年 10 月
(26 年度調査)平成 26 年 7 月～8 月

回収数：(25 年度調査)1,970
(26 年度調査)1,910

荒川区民総幸福度（GAH）では、皆さんの「幸福実感」を「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」という 6 つの分野に分けて考えています。

レポート第 2 号では、「安全・安心」の中の「災害（防災）」に関する「災害時の絆・助け合い」の実感に焦点を絞って、アンケートの結果を詳しくご紹介しています。

幸福実感												
健康・福祉			子育て・教育		産業		環境		文化		安全・安心	
体の健康	心の健康	健康環境	「生きる力」	家族関係	子育て教育環境	仕事	地域経済	サリ 便利 性・ ユニ バー サル デザ イン	快適性	持続可能性	余暇活動	地域文化
											犯罪 事故	災害

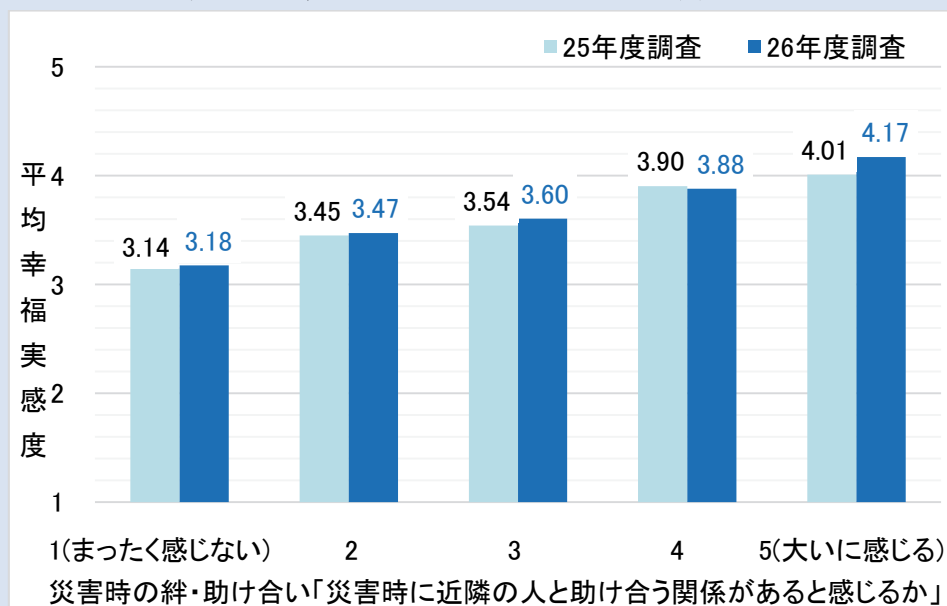
調査の結果から、「災害時の絆・助け合い」の実感が高い人ほど「幸福実感度」が高い傾向にあることがわかりました（右図）。

では、「災害時の絆・助け合い」の実感が高い人、低い人にはそれぞれどのような傾向があるのでしょうか。下表は年代、区内居住年数、居住形態、家族構成ごとにその特徴をまとめています。

「災害時の絆・助け合い」の実感の傾向

	年代	区内居住年数	居住形態	家族構成
実感が高い傾向にある人	60 歳以上	長い人 (20 年以上)	一戸建て 居住者	親・子・孫 (三世代家族)
実感が低い傾向にある人	20～30 代	短い人 (5 年未満)	集合住宅 居住者	一人暮らし

「災害時の絆・助け合い」実感別 平均幸福実感度



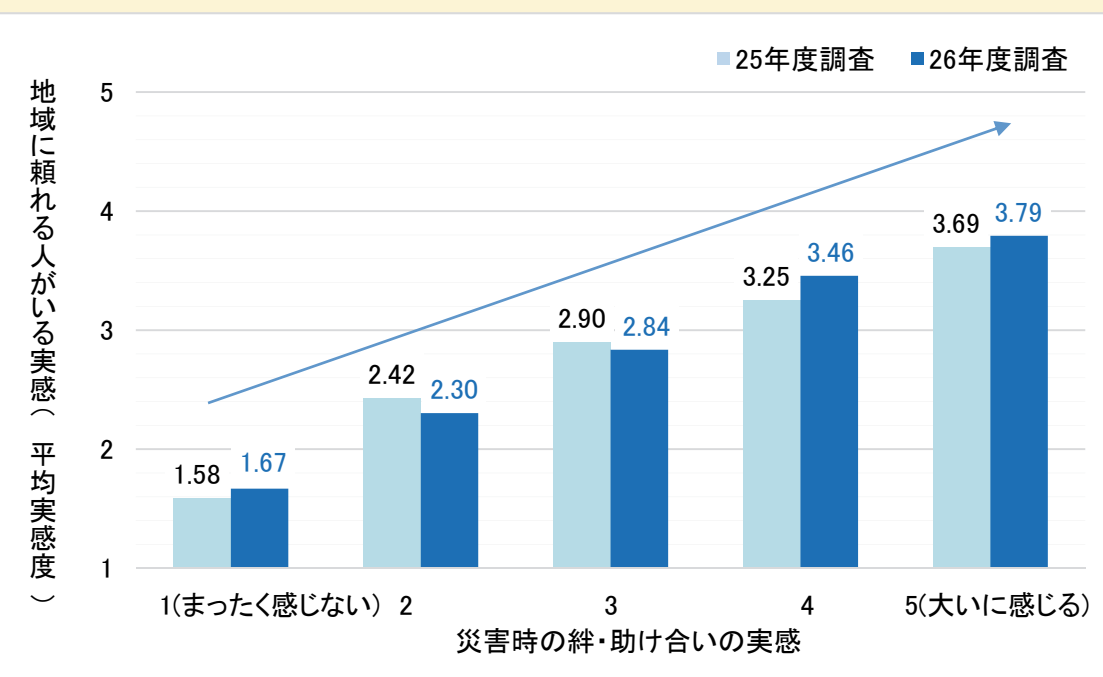
◆実感が低い傾向にある人の特徴を考慮に入れた上で、災害時の絆や助け合いの気運を高めるためには◆

例えば、一人暮らしや集合住宅に住む人、区内居住年数が短い人を意識して、近隣の人との絆を高めることを重視したイベントの開催などが考えられます。その際には、活動への参加の「気軽さ」や、内容の「面白さ」などを工夫することも重要です。

このような点を踏まえ、区では平成 28 年 3 月に、中学生や PTA 等が参加する「防災運動会」を新規に実施する予定です。皆様、ぜひ参加してみたいかがでしょうか！

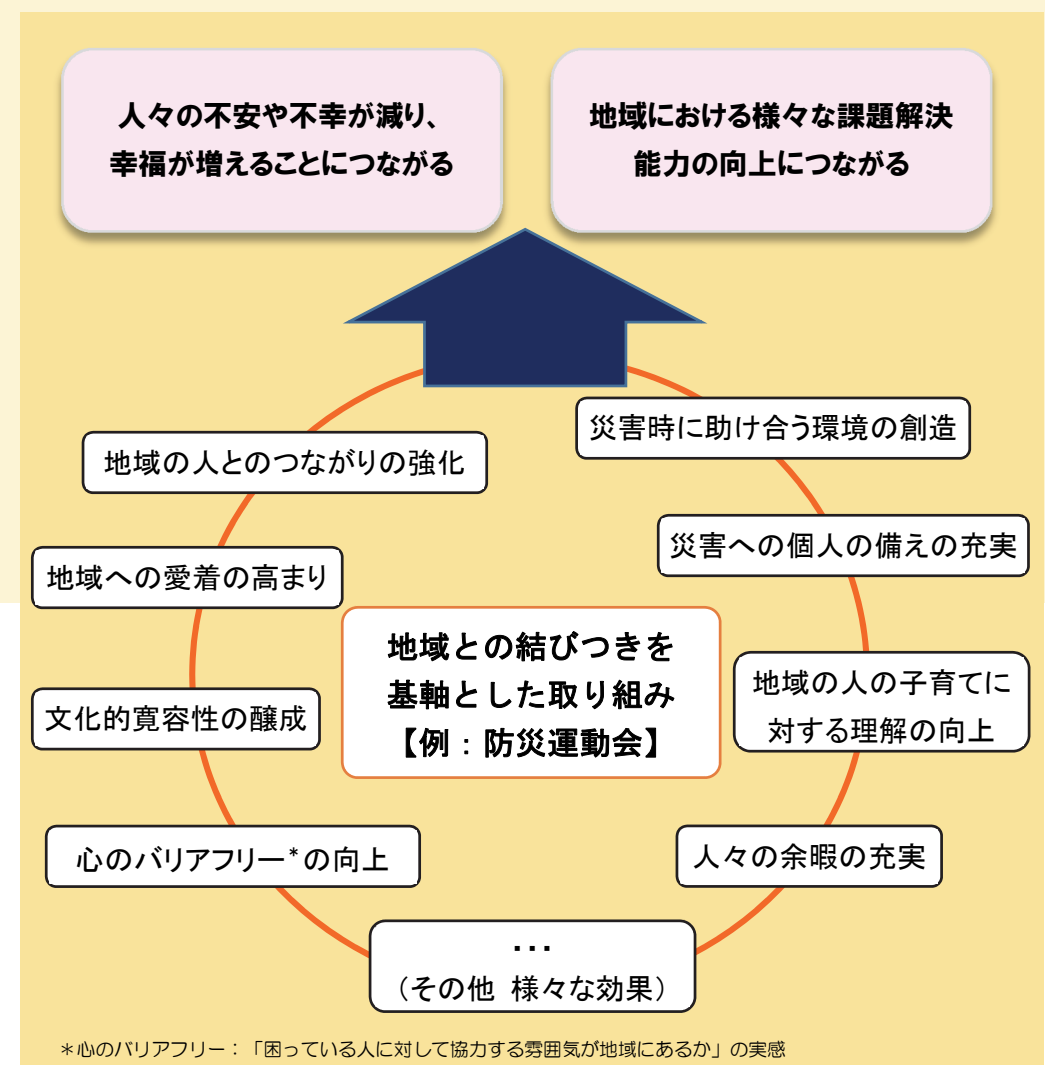
防災運動会のような、地域の人との結びつきを基軸とした取り組みは、防災力の向上のみならず、地域の様々な課題を解決していくうえでも重要になると思われます。下図は、「災害時の絆・助け合い」の実感が高い人ほど、「地域に頼れる人がいる実感」が高い傾向にあることを示しています。

「災害時の絆・助け合い」実感別 地域に頼れる人がいる実感



こうした結果から、「災害時の絆・助け合い」の実感を高めるような取り組みを行うことは、日頃からの地域の人との結びつきの強化につながり、また一方で、地域の人との結びつきを強くするような取り組みを行うことは、災害時の絆・助け合いの環境の創造につながると言えるのではないのでしょうか。

調査からは、ほかにも「災害時の絆・助け合い」の実感が高い人ほど、「地域への愛着」「心のバリアフリー」「地域の子育てへの理解・協力」など様々な実感が高くなる傾向にあることがわかりました。こうしたことから、地域の人との結びつきを基軸とした取り組みをさらに推進することが、地域の課題を解決する力（地域力）の向上や、誰もが幸せを実感できるあたたかい地域社会の実現に必要なことであると考えられます。



*心のバリアフリー：「困っている人に対して協力する雰囲気や地域にあるか」の実感